



県民活動

団体紹介

コミュニティ 須佐 秋市 代表 棕 晶雄



「コミュニティ須佐は、平成16年に、地域が元気になることを目的に「地域づくり研究会」として発足。のちに現在の名称に変更しました。須佐地域は、過疎・少子・高齢など多くの課題を抱えており、その解決に向けた取組みとして、「須佐駅の整備」、「山陰線の利用促進」、「子ども・高齢者・地域見守り運動」などを行っています。

最も力を入れている「桜山の復活活動」では、久原房之助翁寄贈の山を、千本の桜が咲く山として後世につなぐため、子ども達と毎年桜の苗を植えています。これからも地域の未来のため活動を続けていきます。

まど・みちお 研究会 周南市

代表 金子 純



図書館と 友だちの会・秋穂 山口市

代表 原田 洋子

「図書館と友だちの会・秋穂」は、合併を機に設置された秋穂図書館の利活用を市民が考えることを目的に誕生。すべての市民の「居場所」となる図書館を目指し、様々な視点で活動に取り組んできました。

現在、「市民と図書館員の交流広場」、「おもしろ雑学講座」など、多様な講座を開催。なかでも「おしゃべりサロン」は医療現場で実践されている回想法を導入し、地域の昔の写真などを題材に思い出を語り合うことで、介護予防や地域資源の発掘、高齢者の図書館利用につながっています。今後も、図書館に足を運んでもらう仕組みをつくりたいと思います。



まど・みちお研究会は、周南市出身の童謡詩人「まど・みちお」を中心とした童謡文学の調査研究や、自然の豊かさや命の尊さを伝える、童謡出前授業などの活動をしています。

山口県下に童謡文学の流れを創り出したと、10年近く活動を続け、最近では童謡文学に関する企画も展開されてきています。

まど・みちおの生まれた場所に大正初期の面影はありませんが、当時の詩が生まれた背景を思ふことができます。自然は詩を生み出す力を持ち、童謡は子どもの心そのものです。これからは童謡文学の振興を願って頑張ります。

